

「市民とともに60年 未来を拓くわがまち狭山」

これからのまちづくりを担う人材とネットワーク 未来の狭山を拓く子ども達に贈るエール

出席者

- 狭山市自治会連合会会長 廣岡 忠男さん
- 狭山市PTA連合会会長 羽田 伸子さん
- 入間川中学校・おやじの会会長 大前 宏記さん

入間川の流れと豊かな緑

そして：狭山市入間川七夕祭り

市長 狭山市は、今年で市制施行60周年。先人達のおかげで順調に発展し、今「成熟」の時を迎えました。そして、これからはその財産を「再生」しながら新しい狭山を築いていく時期。この60年を節目として過去をしっかりと見詰め、未来を展望していきたくないと考えて



羽田 伸子さん

います。そんな思いを込めて今年のキャッチフレーズを「市民とともに60年 未来を拓くわがまち狭山」としています。

今日は、これから未来を「拓く」その担い手である子ども達の育ちに、日ごろから深く関わっていらっしゃる地縁組織の皆さんにお集まりいただきました。それぞれの立場から、ご意見やご感想を伺えればと思っています。

まずは、日ごろどのような活動をされているか、自己紹介も兼ねてお話しいただけますか。

廣岡 今、狭山市自治会連合会の会長を務めています。私は長く自治会活動に関わっていますが、市



大前 宏記さん

内にある123自治会をまとめるのは大変です。でも、八地区の自治会連合会の会長たちの協力で、和気あいあいと活動していますよ。

羽田 私は子どもが5人いて、狭山台小学校に17年、狭山台中学校に15年お世話になっています。狭山市PTA連合会では、入間川七夕祭りや高校説明会などでも、小中25校の会長たちが協力しながら子ども達のために活動しています。

大前 一番上の子どもが中学校に

入学したときから、おやじの会に入って7年になります。子ども達は大きくなるにつれて学校のことを話さなくなるじゃないですか。だから、学校や子ども達とふれあうために何ができるか考えたとき、PTA活動は仕事の関係もあって、平日の昼間に参加することが難しいし、「先生やPTAではできないことをやろう」というおやじの会の方針は私には合っていました。

市長 皆さん、それぞれに狭山市に貢献いただいてありがたく思っています。その狭山市も60歳。私は、生まれも育ちも狭山市で、高校を卒業し製茶業を始めたところから青少年相談員や消防団などの地域活動を始めました。

この60年で印象に残っているのは、昭和50年に狭山市の人口が10万

人になったときです。ちょうど狭山台団地が完成したころかな。そして、狭山の宝は「入間川の流れと豊かな緑」。狭山市駅西口から見える秩父連山は私の気に入っている風景の一つです。皆さんにとっての思い出に残る出来事やお気に入りのスポットはありますか。

廣岡 私は新富士見橋から見る富士山が素晴らしいと思います。「川のまるごと再生プロジェクト」で中洲がとれてきれいになりました。昔は入間川も水が澄んでいて、私はこの川で泳ぎを覚えてたんですよ。魚がたくさんいたし、ホタルも飛んでいました。夏になると思い出がよみがえりますね。



仲川 狭山市長

羽田 私は40年前に狭山市に引越してきました。当時の入間川駅（現在の狭山市駅）は、上りと下りのホームを行き来するのに、踏切を渡っていました。その後、駅ビルが建ち、さらに駅前は大きく変わり、現在は随分近代的になったな

と感じます。

大前 私は15年前から狭山市に住んでいます。今まで住んでいたところには大きな祭りがなく、初めて入間川七夕祭りを見た時は、すごく感動しました。そして「灯の川」や「つじまつり」など、地域が関わる行事が多くて「狭山市は、よいまちだな」と心から思っています。

廣岡 子どものころ、何と云って私たちが子どもだったところ…

市長 子どものころを思い返すと、地域の中での子ども達の存在や、親同士の関係なども、当時から随分変わってきたように思います。子どもの目線で、また親として、それぞれお思いになっていることをお聞かせください。

廣岡 私が子どものころ、親は恐い存在でしたよ。私の父親は大工でしたが、ある時学校でいたずらをして先生に叱られゲンコツをもらったんです。それを親に話したら、「先生にどんな迷惑をかけたんだ」とって、たんこぶの上にさらにゲンコツですよ（笑）。痛かったですけど、これは私にとって悪い思い出ではないです。そして母は、父のすることに口を出さない人でした



廣岡 忠男さん

も入間川七夕祭りが楽しみでしたよ。お小遣いをもらって遊びにくのがうれしくてね。

市長 商家が多かったから、七夕祭りは昔からにぎやかでしたね。

羽田 昨年、市内の全小・中学生の願いを書いた短冊が市民広場に飾られるようになり、とても華やかになりました。さらに、その短冊を見に来る親子連れで一層にぎわうようになりましたね。

が、後でなくさめてくれましたね。うちは両親がいつも家にいたから、学校の出来事などをすぐに話すことができ、その反応も早かった。今は会社勤めの親が多くて、話したくてもすぐ話せないのだろうね。

市長 狭山は田園都市だったし、農家や商家が多かったから、親の働く姿を見て育った子どもが多

かった。工業団地ができて、農家の人たちがそこへ働きに行くようになってから、村の生活が急に変わったと思いますね。

羽田 上の子が学校に通い始めたころは、いつも学校に熱心なお母さんたちがいて一緒に学校の活動をしていましたが、一番下の子が通うころには、学童保育室を利用する子どもが増えました。お母さんたちも、昼間働いているので、PTAの活動に加わるのが難しいんです。でも、狭山市は「さやまっ子緊急メール」を早い時期に導入しましたよね。これは、働くお母さんたちにとって、とても助かるツールです。

また、最近では、携帯電話を持たせる子どもの低年齢化とともに、さまざまな問題が起きています。親も子ども達のことを一生懸命勉強しないと。子育ての難しい問題などもPTA同士のつながりで解決していければと思っています。

大前 自分の子どももそうですが、自分たちのころよりも大人しい子どもが多いように感じます。

私が子どものころは、夜遅い時間外にいと、早く帰るよう地域の人から声がかかりました。今はそういう子ども達を見かけても声をかけづらくなってしまいましたね。